

富士見町景気動向調査報告書

～小規模事業者・中小企業者景況基本調査～

2023年（令和5年）1月から3月

- 1 調査期間 2023年1月～3月（第4四半期）
- 2 調査対象 富士見町内小規模事業者・中小企業者
- 3 回答状況

製造業	10社
建設業	2社
小売業	1社
飲食業	2社
観光業	3社
サービス業	1社
計	19社
- 4 調査項目
 - ① 3か月前と比べて
 - ② 前年同期と比べて
 - ③ 3か月後の見通し

※ 経営者が受注額（販売額）・売上高・営業利益等から主観的に判断しています。
- 5 業況DI（Diffusion Index）とはゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表し、マイナスの値で景気の下向きを表しています。

Volume 8

主管 ふじみまち産業振興センター

<概況>

3か月前と比べての全体の業況DIは-31.6ポイントであり、今回は-21.1ポイントであった。多少持ち直してきている感はあるが、全体として厳しい状況が続いている。業種別に見ると製造業は前回-9.1ポイントであったが今回は-20ポイントであり、回復基調にはなっていない。在庫調整などが続いている影響もある。

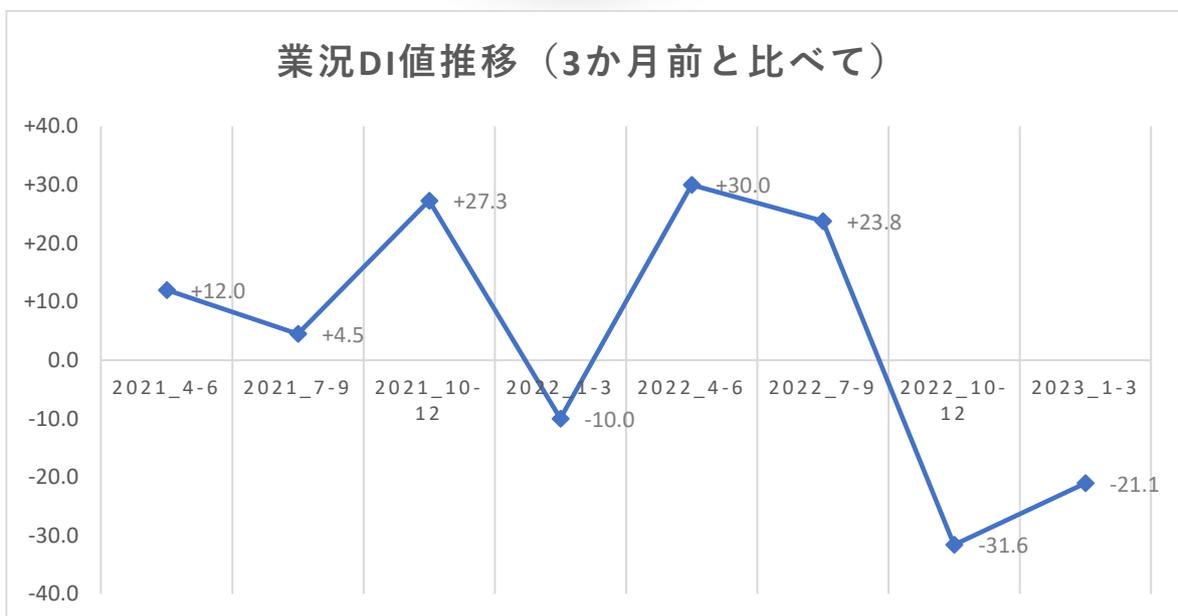
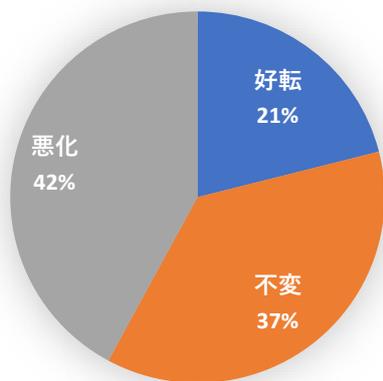
前年同期比において、全体の業況DIは-15.8ポイントであり、前回は+5.3ポイントである。特に製造業は前回0ポイントであったが、今回は-20ポイントであった。落ち幅が大きい。

3か月後の見通しでは、全体の業況DIは0ポイントである。前回は-31.6ポイントであったため、明るい兆しが見えている。経営者の眼にもある通り、材料や資材の高騰に衣服感が出てきているため、価格が安定してきている感がある。後は消費者の行動がどのように動くかである。

飲食業や観光業は第1四半期にゴールデンウィークを控えているため期待値が大きい。

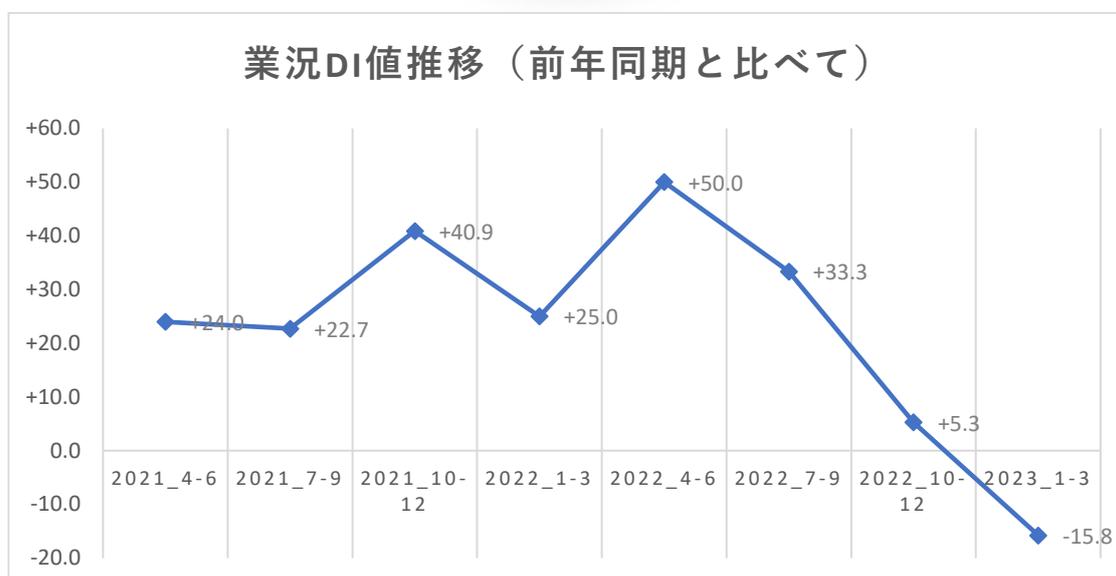
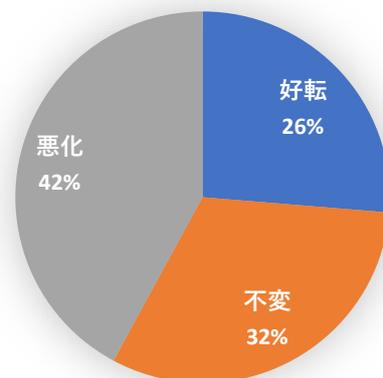
<項目1> 3か月前と比べて

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	4	7	8	19		➔
	構成比	21.1%	36.8%	42.1%		-21.1	
製造業	実数	2	4	4	10		➘
	構成比	20.0%	40.0%	40.0%		-20.0	
建設業	実数	1	0	1	2		➔
	構成比	50.0%	0.0%	50.0%		0.0	
小売業	実数	0	1	0	1		➔
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	
飲食業	実数	0	1	1	2		➘
	構成比	0.0%	50.0%	50.0%		-50.0	
観光業	実数	1	0	2	3		➔
	構成比	33.3%	0.0%	66.7%		-33.3	
サービス業	実数	0	1	0	1		➔
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	



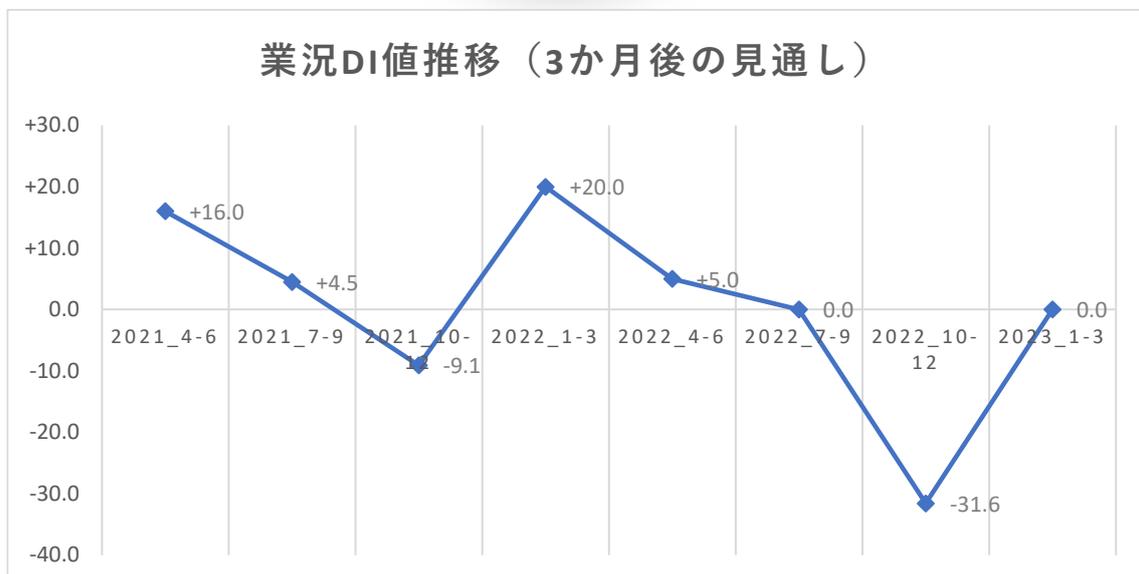
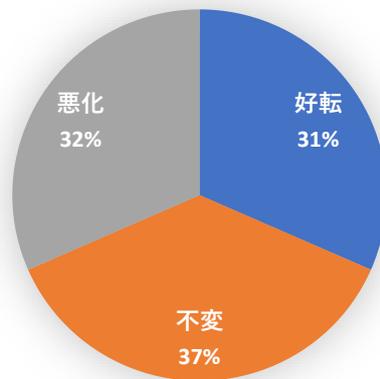
<項目2> 前年同期と比べて

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	5	6	8	19		↓
	構成比	26.3%	31.6%	42.1%		-15.8	
製造業	実数	3	2	5	10		↓
	構成比	30.0%	20.0%	50.0%		-20.0	
建設業	実数	0	1	1	2		↑
	構成比	0.0%	50.0%	50.0%		-50.0	
小売業	実数	0	1	0	1		→
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	
飲食業	実数	1	1	0	2		→
	構成比	50.0%	50.0%	0.0%		+50.0	
観光業	実数	1	0	2	3		↓
	構成比	33.3%	0.0%	66.7%		-33.3	
サービス業	実数	0	1	0	1		→
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	



<項目3> 3か月後の見通し

		好転	不変	悪化	計	業況DI	前回調査比
全体	実数	6	7	6	19		↗
	構成比	31.6%	36.8%	31.6%		0.0	
製造業	実数	1	5	4	10		↗
	構成比	10.0%	50.0%	40.0%		-30.0	
建設業	実数	1	0	1	2		→
	構成比	50.0%	0.0%	50.0%		0.0	
小売業	実数	0	1	0	1		↗
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	
飲食業	実数	2	0	0	2		↗
	構成比	100.0%	0.0%	0.0%		+100.0	
観光業	実数	2	0	1	3		↗
	構成比	66.7%	0.0%	33.3%		+33.3	
サービス業	実数	0	1	0	1		→
	構成比	0.0%	100.0%	0.0%		0.0	



<経営者の眼（見方）>

事業主コメント	業種
半導体製造装置の注残は抱えているが、米中摩擦・シリコンバレー銀行の件から生産が進まず調整をしている為、見透視が困難な状態である。しかしながら年内には生産加速すると思われる。	製造業
現状、停滞感を感じています。案件はあるものの先送りが多い気がします。今後についても不透明感が強く前年に比べると勢いが感じられません。	製造業
案件総数が減少しており売上減少。物価上昇で仕入れ額は増加。利益を出すのが厳しい状況。	製造業
顧客の在庫調整、中国、米国の景気低下とウクライナ戦争による景気下降線をたどっている。見通しとして希望的観測と所いて6月頃より若干上向く可能性有。	製造業
22/4Qはそれ以前と比較して急激に落ち込んだが、23/2Qくらいから持ち直した。その後23/4Qでまた減少したが、その前の納入遅延を挽回した関係で受注の減少ほどは落ち込まなかった。年度明けから上向き傾向ではあるが、3か月後は、中期の情報が出ていないこともあって、見通しは何ともいえない。	製造業
EV関係が好調できたが、ドイツが新車をカーボンニュートラルにする規制を2025年から2035年に延長したため内燃機関係の案件が入ってきている。今後どのような方向に進むのか読むのが難しい。	製造業
現在休業中なので事業面での正確な状況とは言えないが、続く諸々の値上がりで施設維持費だけでも出費は増えている。年末年始・春休みの問い合わせもほぼ無かった。ゴールデンウィークから夏休みにかけての問い合わせは休業中にもかかわらずすでに国内外から複数あるので、人の動きには期待できるが、コスト面でどの程度まで利益が確保できるかが課題となりそうだ。	観光業
歓送迎会等予約客は増加したものの、売上金額は変化なく材料費や経費、人件費の高騰のより収益は厳しい状況が続いています。今後は2次会等20時以降の人の動きに期待します。	飲食業
3カ月前と比べると好転はしてきているが、季節的要因によると思われる。ただ引き合いの強さや案件数が増えてきており、今後の見通しは前年比で好転すると思われる。資材等の値上げラッシュに一服感が出てきており価格は安定しつつあり、消費者マインドがこれ以上冷え込まないことに期待したい。	建設業
民間の仕事があり7月までは忙しい状況が続く。但し、技術者が不足している。	建設業
季節的な事もあり、3ヶ月前よりは悪化となったが、コロナ対策の緩和等もあり前年よりは好転した。今後もしばらく物価や光熱費の高騰により利益は圧迫しそうだが、GW等の人出に期待したい。	飲食業
今後、販売価格の値上げの影響が出てくるとと思われる。時間的に短い波の影響はある程度の範囲で対応できると思うが長い波に対する対応策を今から検討していく必要の方が大きいと思う。	小売業